

公立八女総合病院企業団 病院機能再整備基本計画

【追補版】

主な検討経過について

◎基本計画策定検討委員会(令和4年12月～)

【目的】 公立八女総合病院企業団における将来にわたり担うべき役割や機能等が具体化された
再整備基本計画を策定するため

【委員】 久留米大学理事長、八女筑後医師会会長、八女消防本部消防長、
八女市副市長、広川町副町長、企業団副企業長



◎病院機能再整備基本計画策定(令和5年8月)



◎基本計画追補版検討プロジェクト会議(令和6年7月～)

【目的】 基本計画の実効性の向上を図るため、特に医師確保の課題、公立八女総合病院の経営改善、
八女筑後医療圏における公立病院の在り方などを重要な視点として、計画の追補を行うこと

【委員】 久留米大学理事、筑後市立病院理事長、企業団企業長 他6名



◎病院機能再整備基本計画【追補版】策定(令和7年3月)

八女市及び広川町の政策と関連した本計画の位置づけ

本計画は、八女市及び広川町で構成される一部事務組合で設立された公立病院事業の位置づけとして、両市町における主要な政策課題である「健康・福祉、医療サービスが整った福祉医療都市(八女市)」「人にやさしい保健・医療・福祉の充実した健康・福祉のまち(広川町)」等の取り組みと相互補完した計画としてまとめるものです。

新病院整備に向けた基本理念と目指すべき姿

新病院は、以下に示す「企業団の基本理念と基本方針」に基づき、地域づくりに貢献する「八女市・広川町の拠点事業者」としての役割を果たすとともに、「公立病院」としての役割を果たします。

心のかよった医療を提供し、安心して暮らせる地域づくりに貢献します

患者中心の医療

患者の権利を尊重し、患者中心の医療を提供します。

地域医療の充実

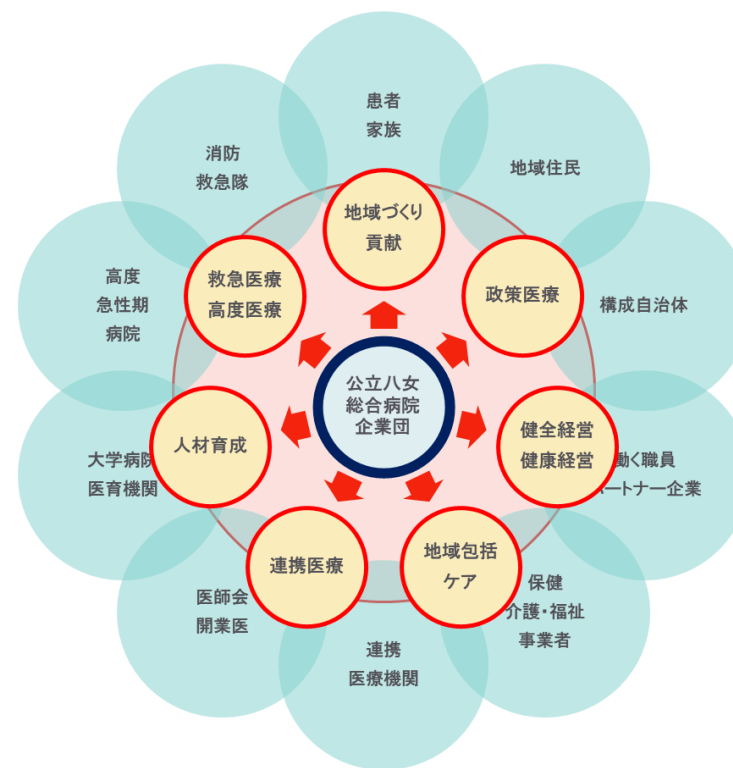
救急医療体制の強化を図るとともに医療・介護・福祉との連携を推進し、地域の中核病院としての役割を果たします。

人材の育成

社会の変化や医療の進歩に対応できる医療従事者の育成に取り組めます。

経営基盤の安定

合理的かつ効果的な運営により、健全な病院経営を実践し、持続可能な病院運営を目指します。



再整備に向けた主な課題と新病院の主な機能及び事業構成

■ 新病院の機能再整備に向け、八女・筑後医療圏における公立の拠点病院として、次の5つの課題を設定しました。

■ 循環器系疾患(心疾患・脳血管疾患)の機能強化

今後も2030年をピークに需要が増加。特に心疾患(高齢者の心不全等)や脳血管疾患の需要への対応

■ 消化器系(胆・肝・膵含む)疾患の診療体制の確保

一定の患者数が見込まれながら、2019年以降(公立八女総合病院常勤医不在)圏外流出が増加していることへの対応

■ 小児医療の継続及び女性向けの総合医療体制の確立

圏内完結率が低い当該分野に対する公立病院の役割として小児医療の体制を継続確保するとともに、圏内の女性医療ニーズへの対応

■ 医療圏内の救急応需力の強化

地域の救急医療における圏外流出の抑制、八女市山間部等のへき地の救急医療ニーズにおける応需力の確保

■ 高齢者の増加に対応した緩和ケア及び在宅医療の強化

高齢者の増加による、心不全、肺炎等の呼吸不全の増加への対応、みどりの杜病院との統合による緩和ケアと在宅医療の継続確保

■ これらの課題を踏まえ、5疾病6事業等の観点から、主な機能及び事業構成における対応方針を次のとおりとしました。

<u>がん</u>	地域がん診療連携拠点病院の継続、在宅での緩和ケアも含めた集学的かつ総合的ながん診療体制の確立	<u>救急・災害</u>	救急隊との連携強化、圏域内救急搬送症例の応需力強化、災害時でも広域から受入可能なヘリポート整備
<u>脳卒中</u>	24時間対応が可能な脳卒中の拠点病院、ハイブリット手術室の整備による血管内治療体制の確立	<u>へき地</u>	八女市東部地区等のへき地医療(訪問診療や医療従事者派遣等)の取り組みとともに、救急医療の確保
<u>心臓病</u>	急性期心血管疾患への24時間対応をはじめとした、高齢者の増加に伴う心不全パンデミック等への対応	<u>周産期</u>	LDR等の快適な出産環境の整備やハイリスク妊婦への対応、女性医療の拠り所となる総合医療体制の整備
<u>糖尿病</u>	合併症予防、重症化予防、教育医療、地域の予防医療事業との連携による専門医療の取り組みの強化	<u>小児</u>	筑後市立病院、医師会との連携による救急体制の確保、常勤医の継続確保による小児医療体制の充実化
<u>緩和医療</u>	がん患者はもちろん、心不全や呼吸不全・腎不全等、高齢患者増加に伴うがん患者以外の緩和医療の取組	<u>感染症</u>	第二種感染症指定医療機関に準じた体制、感染症まん延時でも通常診療機能の継続が可能な施設整備
<u>人材育成</u>	医師会や久留米大学と連携した「地域医療教育センター(仮称)」や「サテライト教室」を設置し、医師研修体制を強化し、地域医療を担う人材育成拠点事業の取り組みを強化		

病床数及び病床機能、診療科構成と診療体制の確保方針

- 急性期機能を重点的に確保した機能構成を維持し、みどりの杜病院の緩和ケア病床(30床)を統合する等、以下の試算条件や考え方に基づき、病床数の適正化を図り、304床に再編します。

- 八女・筑後医療圏における疾患別の将来患者再推計
- 新病院の医療機能及び急性期機能の強化、主に脳血管疾患の重点強化等の診療科別の診療体制の確保
- 急性期病院としての地域医療連携の取り組みの強化等による在院日数のさらなる適正化の推進
- 圏内完結型医療の強化による圏外流出の抑制

病床区分		病床数
高度急性期	ハイケアユニット	12床
急性期	急性期一般（7:1看護）	219床 (5単位)
回復期	地域包括ケア	43床
慢性期	緩和ケア	30床
合計		304床

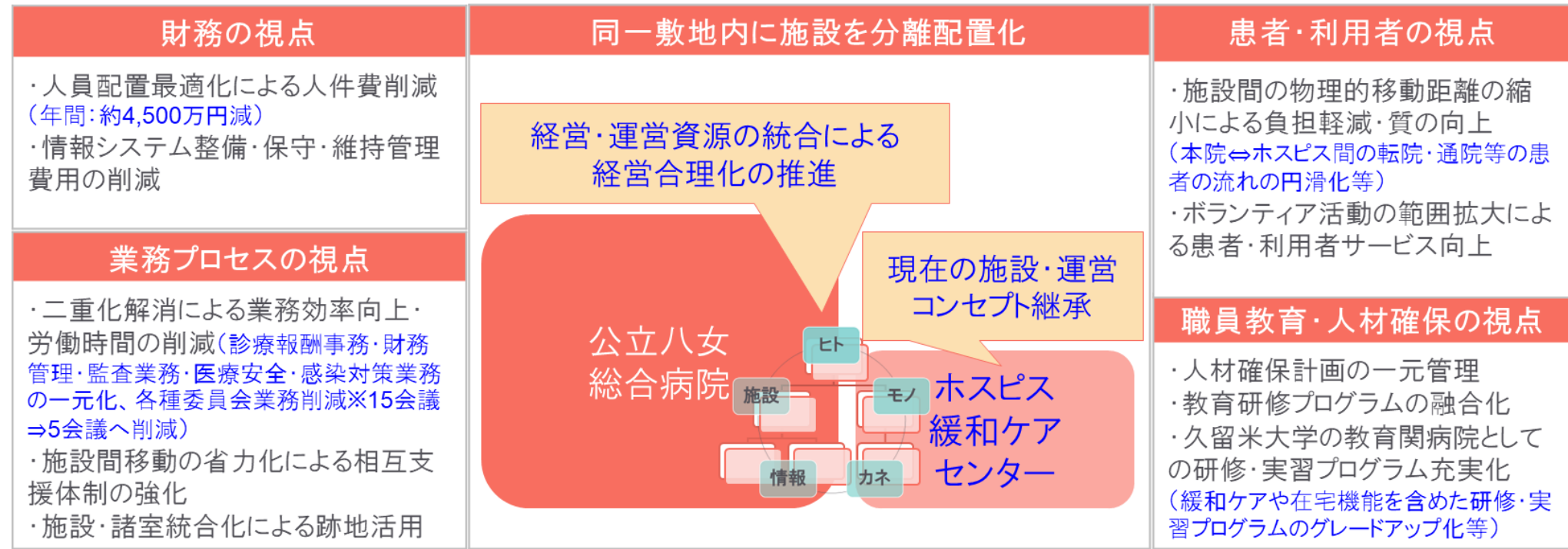
- 新病院の機能強化の方針に合わせ、脳神経内科の新設や救急科の将来設置等、診療体制の充実化を図ります。

診療科名	強化方針	常勤数
消化器内科	強化	6
内分泌代謝内科	強化	3
血液・腫瘍内科	強化	1
膠原病内科	強化	2
呼吸器内科	維持	4
心臓・血管内科	強化	5
腎臓内科	維持	4
脳神経内科（新）	新設	2
総合診療科	-	0
緩和ケア科	維持	6
外科	強化	6
脳神経外科	強化	4
整形外科	維持	2

診療科名	強化方針	常勤数
泌尿器科	強化	2
歯科口腔外科	維持	1
産婦人科	強化	4
小児科	強化	3
精神科	-	0
眼科	維持	2
耳鼻咽喉科	強化	2
皮膚科	維持	2
麻酔科	強化	3
病理診断科	維持	1
放射線診断科	維持	2
放射線治療科	維持	1
救急科（将来）	新設（将来）	0（1）
合計	—	68

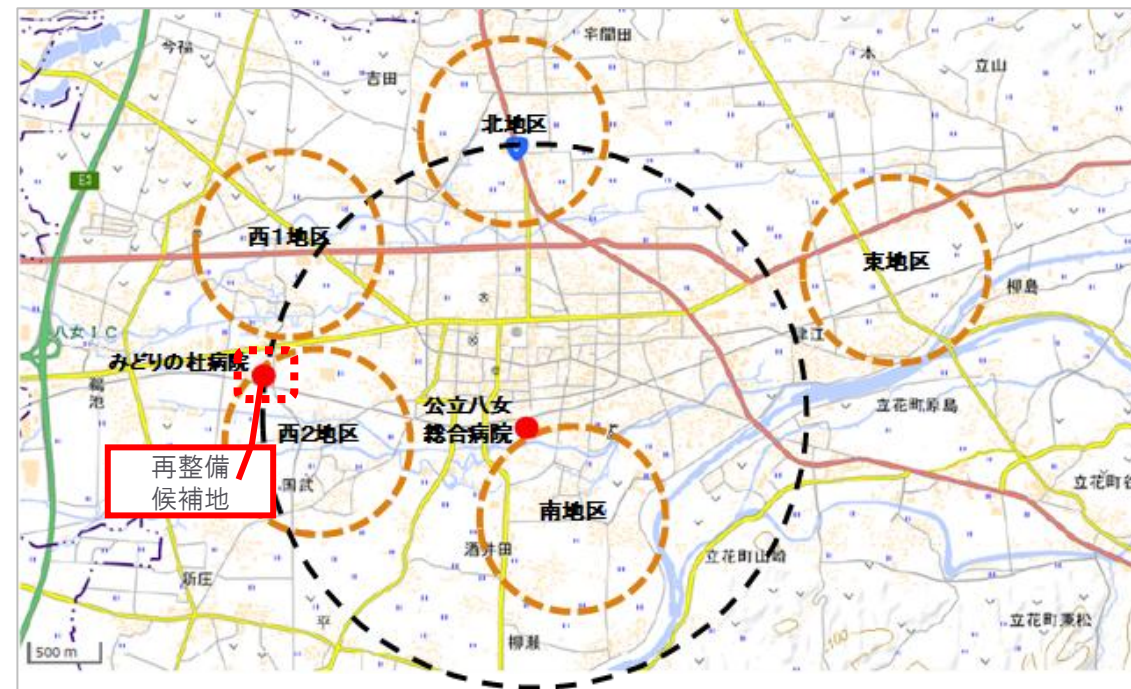
企業団の経営合理化の推進とみどりの杜病院との統合

- 企業団の経営改善が必要な状況下において、企業団内の医療機能と経営機能の再編と合理化の実現のため、「みどりの杜病院」の理念・目指してきた事業コンセプトを継承しながら、公立八女総合病院と「みどりの杜病院」を統合する計画とします。
- 主に経営管理、運営組織の機能の融合化を図り、人員配置（当直等の当番体制、柔軟な配置調整など）、業務委託契約（給食・清掃・物流等）、情報システム等の統合など、一元的な管理運営を実現し、職員の働き方改革や経営の合理化を推進し、下図のとおりの具体的な効果を見込みながら2病院の統合と経営合理化を推進します。



再整備用地の候補エリア

- 再整備用地の必要面積は、約45,000～50,000㎡程度とし、18,000㎡の一団性のある敷地の確保が必要と試算しました。
- 「工事中の安全」「病院運営への影響」「建築工期」「将来性」「災害対応」の観点から現地建替え困難と判断し、再整備用地を確保します。
- 移転候補とするエリアは、「南」「東」「北」「西1」「西2」の5地区を選定し、「必要面積の確保」「建築計画への影響」「アクセス・利便性」「安全性・インフラ」「地域連携」「事業実現性」の観点から評価しました。結果、「面積の確保」や「事業実現性」から「西地区」を有力候補エリアとして絞り込みました。



- みどりの杜病院の運営コンセプト「外来・在宅・入院と切れ目なく緩和ケアを提供すること」、「独立型ホスピス」としての施設コンセプトも継承しながら企業団の経営合理化の推進を行うべく、みどりの杜病院の現施設を新病院の「ホスピス緩和ケアセンター」として転用し、現有施設を有効活用することが経営的な視点からも合理的であるとの結論に至りました。したがって、候補エリアとした「西地区」のうち、「現在のみどりの杜病院の隣接地」を再整備用地の最適な候補地として選定し、用地取得に向けた法令調査や取得可能性に関する詳細な情報収集を行う方針とします。

施設整備方針における5つのコンセプト

■地域の信頼に応え、地域づくりの拠点となる病院づくり

24時間365日稼働、地域に開かれた象徴的、全室個室、プライバシーに配慮、ユニバーサルデザイン志向など

■やりがいを持って、成長を促す、魅力ある病院づくり

安心・安全な就労環境の確保、マグネットホスピタルの実現、リフレッシュ空間、院内保育所の整備、DX技術活用、連携先との交流など

■地域医療を守る災害やパンデミックに強い病院づくり

地震対策(免震構造の採用)、災害発生時のドクターヘリの受入、水害対策、ライフラインのバックアップ、パンデミック発生時の受入など

■地域づくりを支える環境にやさしい病院づくり

CO2の削減、省エネ、周辺環境や景観に配慮、自然エネルギー活用、ライフサイクルコストの低減、ZEB化を目指すなど

■持続可能な経営を実現できる地域を守り続ける病院づくり

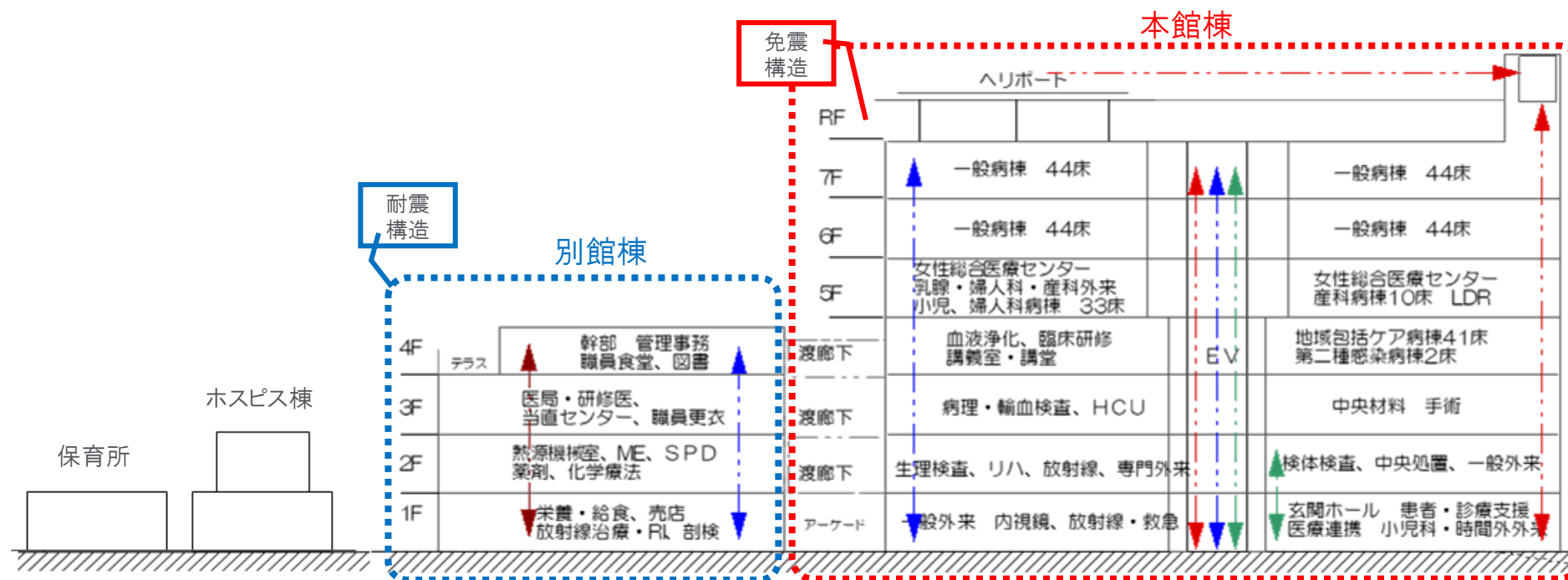
健全で効率的な経営、将来の変化に対応できる柔軟性・拡張性、ローコスト建築、シンプルな構造、地域産業との有機的連携など

敷地利用計画、棟別及び階別構成

- 建築及び配置計画は、将来の建替えを考慮し、敷地中央部に配置し、中期的な増改修にも対応するために空地(増築余地)を確保し、免震構造の「病院本館棟」と耐震構造の「別館棟」及び「ホスピス棟」の3棟で構成します。
- 八女市及び広川町の地域活性化やまちづくりに寄与することを目指し、利用者や働く職員、地域住民との交流拠点の整備や、民間事業の活用を含めた利便施設や付帯サービスの整備を検討します。
- 駐車場は、一般用(250台程度)、職員用(500台程度)を整備。保育所は、保育環境や職員の利便性を考慮し、職員駐車場に近接して整備します。
- 救急搬送と災害時の利用を想定したヘリポート(屋上型を検討)を整備します。

部門別整備計画(主要要点)

- 全室個室病床やセル看護方式の導入による患者に寄り添ったケアが可能な病棟計画とします。
- 女性特有の疾患における外来と入院機能を一体化した「女性総合医療センター」を整備します。
- ロボット支援手術やハイブリッド手術、透視下内視鏡等の高機能な手術部門や内視鏡部門を整備します。



感染症対策計画

- 感染症患者の来院から院内の動線を明確に分離するため、救急及び小児部門に専用出入口を確保し、手術や入院診療の場合の動線を確保するため、感染症患者専用EVを整備します。
- 各診療部門(手術部門、集中治療部門、血液浄化部門等)に陰圧対応が可能な諸室を整備し、感染症患者の診療が可能な環境を確保するとともに、通常診療の継続性を担保した整備計画とします。

直近の情勢等を踏まえた総事業費積算と財源計画

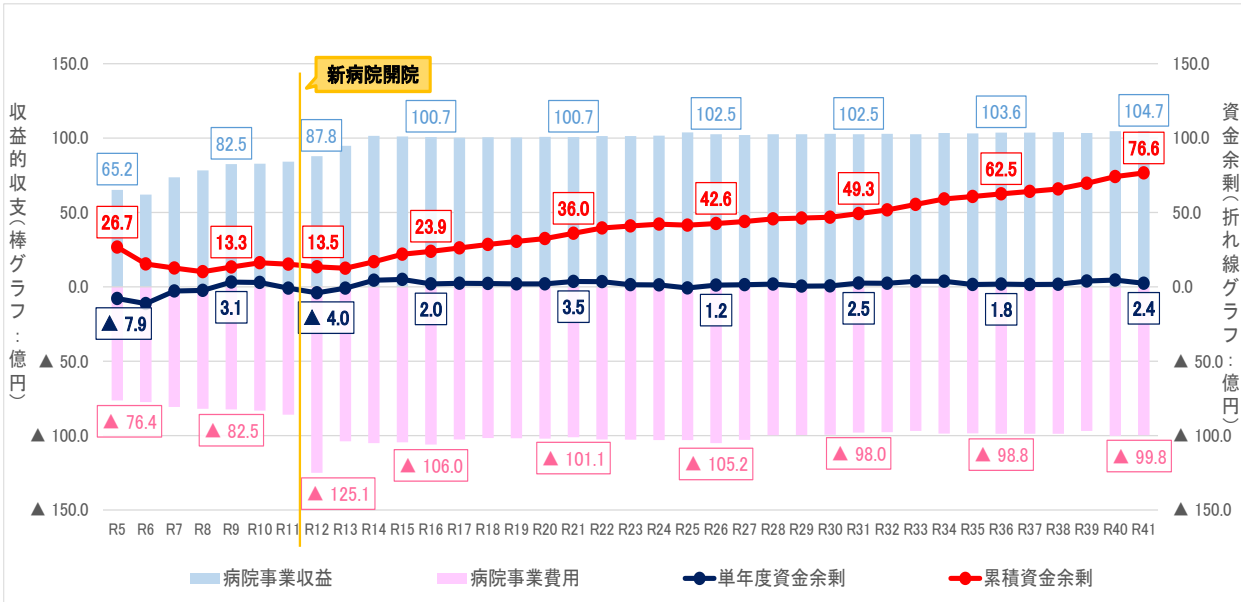
- 近年建設費が著しく高騰し、2023年度下期以降も継続的に上昇を続けており、事業費概算の建築単価は、72.6万円／㎡(税込)に設定し、総事業費の積算を行いました。
- また、財源については、みどりの杜病院との統合による病院事業債(特別分：普通交付税40%措置)、また、屋上ヘリポート等の整備については、災害拠点病院等の施設整備事業に係る病院事業債(災害分：普通交付税70%措置)による資金調達を見込んでいます。

項目	概算費用
用地取得・整備費	20.0億円
建設工事・設計監理費	188.8億円
機械・備品等整備費	27.1億円
付帯施設・移転・その他	11.3億円
合計	247.2億円

事業収支計画

- 「診療体制充足」「収益向上(単価増)」「病床運営改善(在院日数短縮＋地域連携強化)」等に積極的に取り組み収支の改善を図ります。
- 経営強化プラン評価会議において継続的な経営改善状況や取組成果をモニタリングし、適宜見直しを図りながら、経営強化に努めます。

収益	入院 収益	入院診療単価 病床稼働率	63,400円 90%
	外来 収益	1日あたり外来患者数 外来診療単価	530人／日 23,200円
費用	給与費	医療機能の向上に伴う増員を考慮	
	材料費	入院・外来収益に対する材料費比率にて設定	
	経費	直近実績を基に上昇率等を加味し設定	



「八女筑後医療のあり方検討協議会（仮称）」について

この計画は八女・筑後保健医療圏における地域医療提供体制の将来像を示したものです。

現在、企業団を組織する八女市・広川町、隣接自治体である筑後市、地域医療を支える八女筑後医師会、医師派遣を担う久留米大学などの関係者と調整を進めています。

全体スケジュールについて

現計画内容（移転候補地含む）は、外部有識者を含む検討委員会からの答申等を受け、企業団が今年3月に策定したものであり、令和12年度中の開院を目指しているものです。

今後、「八女筑後医療のあり方検討協議会（仮称）」等の関係機関との協議、地域医療懇談会におけるご意見等を踏まえ、具体的な事業化を図っていく予定です。